

広報 すぎなみ

Suginami



支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

3/15
令和4年(2022年)
No.2325

人と動物の共生。
その実現を支えたい。

人も動物も、互いに幸せに暮らせるまち。そんな杉並区を目指して、区から委嘱を受けボランティアで活動するのが杉並区動物適正飼養普及員(愛称「杉並どうぶつ相談員」)です。個人での活動に加え、分野や地域ごとに組まれた「班」での活動も活発。今回は、「猫」、「犬」、「災害対策」の各班長を務める3人にそれぞれの活動について伺いました。



特集



すぎなみピト

杉並どうぶつ相談員

※撮影時のみマスクを外しています。

新型コロナ感染拡大
防止にご協力ください

まん延防止等重点措置が3月21日まで延長されています

区立施設の利用等については、区ホームページ(右2次元コード)をご覧ください。



〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> 📄 発行: 杉並区 📖 編集: 広報課

お知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、本紙掲載の催し等が変更・延期または中止になる場合があります。

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。



杉並区区制施行90周年

地域の安全や衛生が守られた「人と動物が共生できるまち」を目指して

杉並どうぶつ相談員、猫・犬・災害対策班の取り組み

― 各班ではそれぞれどのような活動をされていますか？

吉村：猫班が主に取り組むのは「飼い主のいない猫」の問題です。保健所と連携し、保健所に寄せられた猫に関する相談について、相談者の同意が得られる場合はその内容を共有しています。必要であれば現場に行き対応やサポートも行います。この問題に関しては、私の暮らす地域では何十年も前から自然発生的に取り組みが始まりました。私自身もその活動に参加し、さまざまな出会いと学びを経て、杉並どうぶつ相談員になりました。

匹田：犬班の活動は飼い主に向けた啓発活動がメインです。相談員それぞれに思いはありますが、私自身が特に力を入れている課題は犬のしつけとマナーアップ。というのも、飼い犬に関するトラブルやそこから生まれる軋轢のほとんどは、きちんとしつけてマナーを守るといふ、飼い主の行動次第で解決できることだからです。そうしたメッセージを、上から押し付けるのではなく、「こんなことに気を付けると犬がより社会に受け入れられますよ」という視点で伝えようと心掛けています。



佐伯：私は東日本大震災時に東北でボランティアを経験し、その後、自身が暮らすまちでも何かできることはないかと地域活動を始めました。区の災害ボランティア活動を経て、今はどうぶつ相談員の災害対策班としてペット防災への理解を促す活動を行っています。区民に対しては、区が原則としているペット同行避難とそのため必要な備えを、避難所に対しては、ペット同行避難の意味を知って

もらおうと同時に、その際の飼育場所を決めておいてほしいことをお伝えしています。理解し、備えておくことで実際に災害が起きた時、スムーズにペット同行避難ができます。また、感染症拡大防止、ストレス負荷を最小限に抑えるといった視点から、在宅避難できるように準備しておくことも非常に大切です。併せてその点の啓発も進めています。



匹田：ペット防災を考える上でも、やはりマナーアップは大切な課題ですね。せっかくペット同行避難が可能なのに、適切にしつけされていないペットと一緒に過ごすことが難しくなる可能性が大きいからです。規律や節度をきちんと守ることが、結果的にペットと飼い主の行動範囲や自由度を広げることにつながると、ぜひ知ってほしいです。

今、ペットを飼う人が急増する中で考えること

― 近年目立つ相談事、地域における動物に関する傾向はありますか？

匹田：コロナ禍でペットを飼う人が増えたことを、まちを歩いて実感します。

吉村：それは本当に感じますね。保護猫の譲渡会でも、以前はなかなか飼い主が決まらなかったようなケースが、すぐに決まる傾向にあります。ほとんどの人が責任を持って飼い続けてくれますが、飼う人が増えることでそうではないケースも出てくるのではと不安もあります。またコロナ禍では、経済面などで環境が変わり、飼い続けられなくなってしまったという相談も出てきています。多頭飼育崩壊をはじめ、飼い主がいる猫に関しての問題が増えていく懸念があります。

匹田：犬の場合は留守番ができないと問題行動につながりがちです。例えば在宅ワークになって犬を飼い始めた人が、アフターコロナに生活が変わり、出勤で家を空けることが増え、構ってあげられる時間が減ることも考えられます。「今」だけでなく、5年、10年と一緒に生活していくことを想定して犬と向き合う必要があることも、ぜひ伝えたいです。

佐伯：ペット防災に関しては、東日本大震災後に環境省がガイドラインを作成し、改訂を重ねてきました。区はかなり早い段階から獣医師会と負傷動物救護所の開設・運営に関する協定を結び、取り組みを進めています。地道な啓発活動が少しずつ実を結び、ペット同行避難について学びたいと声をあげてくださる避難所が徐々に増えつつあります。コロナ禍で避難訓練等のイベントはなかなかできませんが、オンライン勉強会の開催など、制限がある中でもできることはあると感じています。

活動のやりがい。それぞれが思い描く共生とは

― 相談員をやっているとよかったと感じるのはどのような時ですか？

佐伯：ペット防災というのは、人の防災とほとんど同じです。私たちはその必要性を肅々と地道に丁寧に説明していくしかありません。理解が進みにくいテーマではありますが、そんな中でも「知らなかったけれどすごく役に立つ情報だった。明日からでもすぐに備えます。」などと言ってもらえた瞬間は、相談員をやっているとよかったとうれしくなります。

匹田：分かります。啓発のリーフレットを受け取った方が後日「お散歩仲間にも伝えましたよ。」などと報告してくださると、地道な積み重ねも決して無駄ではないのだと感じますね。「いつの間にか伝えたいことが広がっていた」というのが理想的です。

吉村：私たちがサポートさせてもらった地域で、地域の方が自ら中心となって、飼い主のいない猫の問題に取り組む活動をどんどん広げ、進めていってくださる。そんなケースを知ると、とても感動します。対処が

難しいケースでも諦めず、さまざまな工夫をして解決に尽力して下さる姿を目の当たりにした時は本当にうれしかったです。

― これから力を入れていきたいこと、目指したいことを教えてください。

吉村：今後も地域の方の自立した活動を、私たち相談員はしっかりサポートしていけるよう力を尽くしていきたいです。活動が広がり、いつか区全域で飼い主のいない猫の問題がカバーされることが目標。そのために、もっと仲間が増えて、もっと地域の方との関係が構築されていくことを願っています。その先に人と動物との共生があると思います。



佐伯：災害対策班としては、引き続きオンラインでの勉強会などに力を入れつつ、まずどこか1カ所の震災救援所でもよいので、ペット同行避難がマニュアル化され、モデルケースが作られるといいなと期待しています。班横断で相談員同士が連携し、そのサポートに取り組んでいきたいです。

匹田：私自身、「犬に恩返しをしたい」として「人の役に立ちたい」という思いから相談員になり、人も犬も幸せに暮らすためにどうすればよいのかを考え、そのために欠かせないマナーアップに尽力してきました。「どうぶつ相談員」と聞くと、ただ動物好きが動物好きのためにやっている活動ではないかと想像する方もいるかもしれませんが、人と動物の共生というテーマは、地域の安全や衛生など、環境を守ることに繋がっています。ぜひ区民の皆さんと一緒に「人と動物が共生できるまち」を目指していきたいと思っています。



吉村 美智

匹田 健二

佐伯 由紀子

プロフィール：左から吉村美智（よしむら・みち） 猫班班長。自宅のそばにたまたま猫が多かったことをきっかけに、約20年前より飼い主のいない猫の問題解決に関わるボランティアを継続。6年前から相談員に。／匹田健二（ひきた・けんじ） 犬班班長。ドッグトレーナー、ドッグシッターとして仕事でも犬に深く関わる。苦しい時期を犬に救われたことから「恩返しを」の思いで相談員の活動を始めた。／佐伯由紀子（さえき・ゆきこ） 災害対策班班長。東北で復興支援ボランティアを経験し、区でもさまざまな地域活動に参画。犬の飼育歴は約20年。区内で保護された犬「もも」と共に暮らす。



すぎなみビット

interview

杉並どうぶつ相談員



杉並どうぶつ相談員とは？

杉並どうぶつ相談員は、「杉並区動物適正飼養普及員」の愛称です。杉並区から委嘱を受けたボランティアで、身近な相談員として、区民の求めに応じて動物の飼い方・動物愛護・動物との付き合い方等の相談・普及啓発活動を行います。杉並どうぶつ相談員になるには、すぎなみ地域大学で「杉並どうぶつ相談員講座」（毎年10～12月頃に実施）を受講した後、杉並どうぶつ相談員になることを希望した方について、区が委嘱をします。

🐾 飼い主のいない猫を増やさないために

区では、「飼い主のいない猫の世話・杉並ルール」に基づいて猫を適正管理し、猫が増えないように見守る活動を支援するため、不妊去勢手術費等の助成事業を実施しています。また、区民が中心となって3名以上で飼い主のいない猫を見守るグループの登録制度を設け、活動の支援を行っています。

🐾 災害時のペット救護対策

区では、獣医師会や杉並どうぶつ相談員と協力し、防災訓練等の機会に、日常の備えや健康管理、しつけ、所有明示、ペットのための防災用品の準備を呼び掛けるとともに、ペット同行避難について普及啓発を行っています。



詳しくは、区ホームページ（右2次元コード）のチラシ・パンフレットをご覧ください。

杉並保健所生活衛生課管理係 ☎3391-1991

YouTubeで配信中!

紙面には掲載しきれなかった取材のこぼれ話も動画で紹介しています。



すぎなみビット「杉並どうぶつ相談員」のインタビューが動画でも楽しめます。右2次元コードからご覧いただけます。



杉並区公式チャンネル